

## 「英語第Ⅲ(B群)」講座番号一覧表

※A群・B群で同じ担当者をWebエントリーすることはできません。

(担当者名の50音順で掲載)

講座番号	科目名	担当者	曜日時限
101	英語第Ⅲ	安藤 和弘	金 4
102	英語第Ⅲ	安藤 和弘	金 5
103	英語第Ⅲ	太田 裕子	金 3
104	英語第Ⅲ	太田 裕子	金 4
105	英語第Ⅲ	大和田 俊之	木 1
106	英語第Ⅲ	大和田 俊之	金 1
107	英語第Ⅲ	叶澤 恵	土 1
108	英語第Ⅲ	叶澤 恵	土 2
109	英語第Ⅲ	カーンス, ハリー D.	木 1
110	英語第Ⅲ	カーンス, ハリー D.	木 2
111	英語第Ⅲ	神徳 敦子	木 3
112	英語第Ⅲ	神徳 敦子	木 4
113	英語第Ⅲ	小竹 直	金 2
114	英語第Ⅲ	小竹 直	金 3
115	英語第Ⅲ	佐藤 直子	木 3
116	英語第Ⅲ	佐藤 直子	木 4
117	英語第Ⅲ	佐藤 直子	木 5
118	英語第Ⅲ	坪野 圭介	金 2
119	英語第Ⅲ	坪野 圭介	金 3
120	英語第Ⅲ	道家 美紀子	金 1
121	英語第Ⅲ	道家 美紀子	金 2
122	英語第Ⅲ	冨塚 亮平	木 3
123	英語第Ⅲ	冨塚 亮平	木 4
124	英語第Ⅲ	永嶋 友	木 2
125	英語第Ⅲ	難波 阿丹	木 3
126	英語第Ⅲ	難波 阿丹	木 4
127	英語第Ⅲ	新名 ますみ	金 1
128	英語第Ⅲ	野中 大輔	金 3
129	英語第Ⅲ	野中 大輔	金 4
130	英語第Ⅲ	平賀 優子	土 2
131	英語第Ⅲ	深谷 素子	金 4
132	英語第Ⅲ	深谷 素子	金 5
133	英語第Ⅲ	山根 亮一	金 1
134	英語第Ⅲ	山根 亮一	金 2
135	英語第Ⅲ	ヤング, ジェローム	木 2
136	英語第Ⅲ	ヤング, ジェローム	木 3
137	英語第Ⅲ	横山 晃	金 4
138	英語第Ⅲ	横山 晃	金 5
139	英語第Ⅲ	ローザ, マーク	土 3

英語第Ⅲ(B群)

英語

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

文学作品と翻訳で学ぶ英語 [C]  
春学期・秋学期: 金5

安藤 和弘

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

文学作品の英語を自然な日本語に翻訳することで英文の理解を深める術を身につける講座。本邦未訳の小説を材料とし、通年で読み切るペースで、毎週、一定量の英文を読みこなしながら、その一部分を課題箇所を設定し、翻訳作業を行う。翻訳というのは、辞書は当然のことながら参考にしながらも、英文の口調やニュアンスを聞き取り、辞書から一定の距離を置いて、自分なりに自然で生きた日本語に変換をすることの意。その照り返しで、英文を生きた言葉として捉え直す才覚を身につけることが、この講座の最大の目的である。毎回、受講学生全員が指定範囲の英文を読み、およその物語展開を把握した上で、翻訳レポート課題を指定の日時までに提出する。そこから数本を教員は選び、取りまとめ、レジュメ集として配布する。それを受講学生全員が検討し、意見交換を行う。教員は毎回まとめの講評をするが、受講学生どうしのあいだで教え合い、学び合うのが理想的である。更なる詳細は初回に説明をする。

取り上げる小説と作家を簡単に紹介しておく。Jonathan Coeは、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した*What a Carve Up!* (1994)以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる*The Terrible Privacy of Maxwell Sim*は2010年の刊行。時代は2008年の金融危機でがらりと世相が変わったその直後。舞台は、オーストラリアからロンドン、そしてスコットランドへと、主人公の人生の旅という趣きで変わっていく。コミュニケーション・テクノロジーが発達し、人と人の繋がりはより容易になったと思える現代において、子供時代にまで遡って複雑な過去を引きずる主人公(Maxwell Sim)は時代について行けずに孤立する。そういう彼が戸惑いながらも必死に自分じしんを現在時制で再定位しようとする姿が、ユーモラスな筆致で描かれる。喜劇作品だが、同時に深く叙情的でもある。また、金融危機以後の英国社会の空気に触れることができる作品でもある。

授業の計画:

- 第1回: イントロダクション (講座の説明)
- 第2回: Sydney-Watford, Chapter 1
- 第3回: Sydney-Watford, Chapter 2
- 第4回: Sydney-Watford, Chapters 3-4
- 第5回: *WATER: The Misfit*, pp. 45-57
- 第6回: *WATER: The Misfit*, pp. 57-64
- 第7回: Sydney-Watford, Watford-Reading, Chapters 5-6
- 第8回: Watford-Reading, Chapters 7-8
- 第9回: Watford-Reading, Chapter 9
- 第10回: Watford-Reading, Chapter 10
- 第11回: *EARTH: The Nettle Pit*
- 第12回: Watford-Reading, Chapter 11
- 第13回: Reading-Kendal, Chapter 12
- 第14回: まとめ
- その他: 課題・レポート/補講
- 第15回: Reading-Kendal, Chapter 13
- 第16回: *FIRE: The Folded Photograph*
- 第17回: Reading-Kendal, Chapter 14
- 第18回: Reading-Kendal, Chapter 15
- 第19回: Kendal-Braemar, Chapter 16
- 第20回: Kendal-Braemar, Chapters 17-19
- 第21回: *AIR: The Rising Sun*, pp. 245-262
- 第22回: *AIR: The Rising Sun*, pp. 262-280
- 第23回: Kendal-Braemar, Chapter 20, pp. 281-289
- 第24回: Kendal-Braemar, Chapter 20, pp. 289-298
- 第26回: Fairlight Beach, Chapter 21

第26回: Fairlight Beach, Chapter 22

第27回: Fairlight Beach, ✓ I

第28回: まとめ

その他: 課題・レポート/補講

(以上は予定であり、若干の変更はありえる。第1回から第14回が春学期、第15回から第28回が秋学期。)

成績評価方法:

提出物(レポート課題)80%、配布資料へのコメント20%を目安に総合評価。履修者数が確定してから改めて通知する。

テキスト(教科書):

Jonathan Coe, *The Terrible Privacy of Maxwell Sim*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241967775

参考書:

なし。

担当教員から履修者へのコメント:

学習意欲がある学生の受講を歓迎する。英国の社会・文化に関心がある諸君に特に受講を勧める。取り上げる教材は小説であり、通年で読めるペースで、毎週、読み進めていく。

学生は、毎週、翻訳レポート課題を提出し、配布されるレジュメ集の内容にコメントをする。最後に教員が総括的なフィードバックをする。原書の指定の範囲を読み、指定箇所の翻訳レポートを作成する作業が予習に相当し、目安だが3時間程度を要する。授業時に作成するノートを整理する作業が復習に相当し、目安だが1時間程度を要する。

4回以上無断欠席をすると、成績評価の対象外となる。レポートを4本以上期限までに提出し損ねると、不合格となる。

授業は対面での実施を柱とするが、5~7回程度をオンライン(オンデマンド)で実施する。学期の前半に対面での授業回を多めに設ける予定。更なる詳細は開講時に周知する。

初回は対面で実施する。

質問・相談:

質問や相談は簡略な要件であれば授業の前後に受けつける。なお、教材や授業に関わる質問は、回答を全員にする必要があるので、授業時間内に行うこと。

質問、相談の内容が授業とは関係がなく、私事にかかわるものである場合は、メールで直接に教員に連絡をすることができる。

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

文学作品と翻訳で学ぶ英語 [C]

春学期・秋学期: 金4

安藤 和弘

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

文学作品の英語を自然な日本語に翻訳することで英文の理解を深める術を身につける講座。本邦未訳の小説を材料とし、通年で読み切るペースで、毎週、一定量の英文を読みこなしながら、その一部分を課題箇所を設定し、翻訳作業を行う。翻訳というのは、辞書は当然のことながら参考にしながらも、英文の口調やニュアンスを聞き取り、辞書から一定の距離を置いて、自分なりに自然で生きた日本語に変換をすることの意。その照り返しで、英文を生きた言葉として捉え直す才覚を身につけることが、この講座の最大の目的である。毎回、受講学生全員が指定範囲の英文を読み、およその物語展開を把握した上で、翻訳レポート課題を指定の日時までに提出する。そこから数本を教員は選び、取りまとめ、レジュメ集として配布する。それを受講学生全員が検討し、意見交換を行う。教員は毎回まとめの講評をするが、受講学生どうしのあいだで教え合い、学び合うのが理想的である。更なる詳細は初回に説明をする。

取り上げる小説と作家を簡単に紹介しておく。Jonathan Coeは、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した*What a Carve Up!* (1994)以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる*The Terrible Privacy of Maxwell Sim*は2010年の刊行。時代は2008年の金融危機でがらりと世相が変わったその直後。舞台は、オーストラリアからロンドン、そしてスコットランドへと、主人公の人生の旅という趣きで変わっていく。コミュニケーション・テクノロジーが発達し、人と人の繋がりはより容易になったと思える現代において、子供時代にまで遡って複雑な過去を引きずる

主人公 (Maxwell Sim) は時代について行けずに孤立する。そういう彼が戸惑いながらも必死に自分じしんを現在時制で再定位置しようとする姿が、ユーモラスな筆致で描かれる。喜劇作品だが、同時に深く叙情的でもある。また、金融危機以後の英国社会の空気に触れることができる作品でもある。

#### 授業の計画:

- 第1回: イントロダクション (講座の説明)
  - 第2回: Sydney-Watford, Chapter 1
  - 第3回: Sydney-Watford, Chapter 2
  - 第4回: Sydney-Watford, Chapters 3-4
  - 第5回: *WATER: The Misfit*, pp. 45-57
  - 第6回: *WATER: The Misfit*, pp. 57-64
  - 第7回: Sydney-Watford, Watford-Reading, Chapters 5-6
  - 第8回: Watford-Reading, Chapters 7-8
  - 第9回: Watford-Reading, Chapter 9
  - 第10回: Watford-Reading, Chapter 10
  - 第11回: *EARTH: The Nettle Pit*
  - 第12回: Watford-Reading, Chapter 11
  - 第13回: Reading-Kendal, Chapter 12
  - 第14回: まとめ
  - その他: 課題・レポート/補講
  - 第15回: Reading-Kendal, Chapter 13
  - 第16回: *FIRE: The Folded Photograph*
  - 第17回: Reading-Kendal, Chapter 14
  - 第18回: Reading-Kendal, Chapter 15
  - 第19回: Kendal-Braemar, Chapter 16
  - 第20回: Kendal-Braemar, Chapters 17-19
  - 第21回: *AIR: The Rising Sun*, pp. 245-262
  - 第22回: *AIR: The Rising Sun*, pp. 262-280
  - 第23回: Kendal-Braemar, Chapter 20, pp. 281-289
  - 第24回: Kendal-Braemar, Chapter 20, pp. 289-298
  - 第26回: Fairlight Beach, Chapter 21
  - 第26回: Fairlight Beach, Chapter 22
  - 第27回: Fairlight Beach, ✓ I
  - 第28回: まとめ
  - その他: 課題・レポート/補講
- (以上は予定であり、若干の変更はありえる。第1回から第14回が春学期、第15回から第28回が秋学期。)

#### 成績評価方法:

提出物 (レポート課題) 80%、配布資料へのコメント20%を目安に総合評価。履修者数が確定してから改めて通知する。

#### テキスト(教科書):

Jonathan Coe, *The Terrible Privacy of Maxwell Sim*, Penguin, 2014  
ISBN: 978-0241967775

#### 参考書:

なし。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

学習意欲がある学生の受講を歓迎する。英国の社会・文化に関心がある諸君に特に受講を勧める。取り上げる教材は小説であり、通年で読めるペースで、毎週、読み進めていく。

学生は、毎週、翻訳レポート課題を提出し、配布されるレジュメ集の内容にコメントをする。最後に教員が総括的なフィードバックをする。原書の指定の範囲を読み、指定箇所の翻訳レポートを作成する作業が予習に相当し、目安だが3時間程度を要する。授業時に作成するノートを整理する作業が復習に相当し、目安だが1時間程度を要する。

4回以上無断欠席をすると、成績評価の対象外となる。レポートを4本以上期限までに提出し損ねると、不合格となる。

授業は対面での実施を柱とするが、5~7回程度をオンライン (オンデマンド) で実施する。学期の前半に対面での授業回を多めに設ける予定。更なる詳細は開講時に周知する。

初回は対面での実施する。

#### 質問・相談:

質問や相談は簡略な用件であれば授業の前後に受けつける。なお、教材や授業に関わる質問は、回答を全員にする必要があるため、授業時間内にすること。

質問、相談の内容が授業とは関係がなく、私事にかかわるものである場合は、メールで直接に教員に連絡をすることができる。

#### 英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

#### 英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

アカデミック リーディング・スピーキング[C][P]  
春学期・秋学期: 金3/金4

太田 裕子

#### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

このクラスでは、社会の様々な問題に関する文章を語彙力を身につけながら理解し、深い読解力や考察力を養うことを目指します。グラフや表、注釈の参照、文脈における読み取りなどのスキルも体系的に身につけます。また社会問題に対する自分の考えを説明できるよう実践的スキルを身につけることも目的とします。

#### 授業の計画:

##### 【春学期】

- 第1回  
Introduction
- 第2回  
Architecture 1 (Skill focus: Previewing and predicting)
- 第3回  
Architecture 2 (Skill focus: Strategies for learning academic vocabulary)
- 第4回  
Architecture 3 (Skill focus: Identifying main ideas)
- 第5回  
Architecture 4 (Skill focus: Identifying main ideas)
- 第6回  
Urban Planning 1 (Skill focus: Identifying supporting details)
- 第7回  
Urban Planning 2 (Skill focus: Skimming and making predictions)
- 第8回  
Urban Planning 3 (Skill focus: Recognizing text organization)
- 第9回  
Urban Planning 4 (Skill focus: Recognizing text organization)
- 第10回  
Art and Design 1 (Skill focus: Interpreting charts, graphs, and tables)
- 第11回  
Art and Design 2 (Skill focus: Paraphrasing main ideas)
- 第12回  
Art and Design 3 (Skill focus: Summarizing a text)
- 第13回  
Art and Design 4 (Skill focus: Summarizing a text)
- 第14回  
Final test and review
- その他  
Course summary and review

##### 【秋学期】

- 第1回  
Introduction
- 第2回  
Public Health 1 (Skill focus: Analyzing evidence in academic texts)
- 第3回  
Public Health 2 (Skill focus: Making inferences)
- 第4回  
Public Health 3 (Skill focus: Analyzing evidence in academic texts)
- 第5回  
Public Health 4 (Skill focus: Making inferences)
- 第6回  
Film Studies 1 (Skill focus: Analyzing evidence in academic texts)
- 第7回  
Film Studies 2 (Skill focus: Summarizing a text)
- 第8回  
Film Studies 3 (Skill focus: Analyzing evidence in academic texts)
- 第9回  
Film Studies 4 (Skill focus: Analyzing evidence in academic texts)
- 第10回  
Engineering 1 (Skill focus: Making inferences)
- 第11回  
Engineering 2 (Skill focus: Reviewing skimming)

第12回  
Engineering 3 (Skill focus: Reviewing making predictions)  
第13回  
Engineering 4 (Skill focus: Understanding the target academic words)  
第14回  
Final test and review  
その他  
Course summary and review  
成績評価方法:  
成績は平常点、提出物、及び学期末試験の評価等を総合して判断される。  
期末試験が実施できない場合は試験の代わりに期末課題が評価される。  
テキスト(教科書):  
Rubin, Bruce. (2012). *Inside Reading: The Academic Word List in Context*. 3. Second edition. Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-441629-0  
担当教員から履修者へのコメント:  
授業は対面で行います。  
授業スケジュール等は、状況に応じて変更されることもあります。  
質問・相談:  
Canvasの本科目のサイトを定期的にチェックしてください。

### 英語第Ⅲ 1単位(春学期)

### 英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

英語の四技能の向上 [C][P]  
春学期・秋学期: 木1/金1

大和田 俊之

#### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

主として時事問題に関するテキスト(新聞記事、雑誌記事)を用いながら英語の四技能——リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング——の向上を目指す。授業は1)リーディングとテキストの読解、2)グループ・ディスカッション、3)内容確認のためのQ&Aをルーティーンとする。リーディングに関してはなるべく正確さを心がけ、リスニングとスピーキングでは正確さよりもコミュニケーションを重視したスキルの習得を目標とする。

#### 授業の計画:

##### 【春学期】

- 第1回 イントロダクション
  - 第2回 ディスカッション、Q&A
  - 第3回 プレゼンテーション
  - 第4回 ディスカッション、Q&A
  - 第5回 プレゼンテーション
  - 第6回 ディスカッション、Q&A
  - 第7回 プレゼンテーション
  - 第8回 ディスカッション、Q&A
  - 第9回 プレゼンテーション
  - 第10回 ディスカッション、Q&A
  - 第11回 プレゼンテーション
  - 第12回 ディスカッション、Q&A
  - 第13回 プレゼンテーション
  - 第14回 まとめおよび試験
- その他 オフィスアワー

##### 【秋学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ディスカッション、Q&A
- 第3回 プレゼンテーション
- 第4回 ディスカッション、Q&A
- 第5回 プレゼンテーション
- 第6回 ディスカッション、Q&A
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 ディスカッション、Q&A
- 第9回 プレゼンテーション
- 第10回 ディスカッション、Q&A
- 第11回 プレゼンテーション
- 第12回 ディスカッション、Q&A
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 まとめおよび試験

その他 オフィスアワー

#### 成績評価方法:

成績は出席、試験、平常点(小テストなど)を総合的に評価したうえで決定する。授業の3分の1を欠席したものは学期末試験を受けることができない。

#### テキスト(教科書):

プリントを配布する。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

大和田が担当する木曜1限と金曜1限の英語Ⅲは同一内容なので重ねて履修することはできない。

### 英語第Ⅲ 1単位(春学期)

### 英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

TOEICのトレーニング [C]

春学期・秋学期: 土1

叶澤 恵

#### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

①2016年5月からの新形式のTOEIC問題に対応したテキストやプリントを使用し、演習を通じて、TOEICの攻略法を学ぶ。リスニング、リーディングの両セクション共に、TOEICの問題形式と出題傾向を把握し、スコア・アップを目指す。

②TOEICの問題は、実用的な英語表現を使いこなす力を要求するため、ニュース、新聞、インターネットなどを駆使して、様々な英語に慣れ親しむ。

\*原則として対面授業を実施しますが、状況に応じて5~7回オンライン授業を行います。オンライン授業はオンデマンドが中心となりますが、30~60分のZoom Meetingへの参加が必要な場合もあります。詳しくは初回授業(対面)で説明します。

#### 授業の計画:

##### 【春学期】

- 第1回 Introduction (遠隔授業の進め方/英語の学習法)
  - 第2回 文法力確認テスト/TOEICの勉強法
  - 第3回 Text Unit 1
  - 第4回 文型 / Unit 1 Review
  - 第5回 語彙テスト① Vocabulary 001-300 / Unit 2
  - 第6回 文の要素 / Unit 3
  - 第7回 文型テスト / Text Review
  - 第8回 音読テスト①/ Part 5 対策
  - 第9回 語彙テスト②/ Vocabulary 301-600 / Unit 4
  - 第10回 Unit 5 / Part 5 対策
  - 第11回 文の要素テスト / Unit 6
  - 第12回 音読テスト② / 文の要素テストR Review/ Part 6対策
  - 第13回 Text Review / Part 2対策
  - 第14回 Final Test(単語集)+TOEIC形式の実力問題) / feedback
- その他 Make-up class or assignment

##### 【秋学期】

- 第1回 Unit 7
  - 第2回 Unit 8
  - 第3回 語彙テスト③ Vocabulary 601-900 / Text Review
  - 第4回 Unit 9 / Part 5 対策
  - 第5回 Unit 10
  - 第6回 音読テスト③/ Part 7対策
  - 第7回 語彙テスト④ Vocabulary 901-1100 / Unit 11
  - 第8回 Unit 12
  - 第9回 Post Test / Part 3対策
  - 第10回 Post Test Review / Part 7対策
  - 第11回 語彙テスト⑤ Vocabulary 1101-1300 / Text Review
  - 第12回 音読テスト④/ Post Test Review
  - 第13回 Text Review / Part 4対策
  - 第14回 Final Test (単語集レベルC 1301~1620)+TOEIC形式の実力問題) / feedback
- その他 Make-up class or assignment

#### 成績評価方法:

成績は、出席、平常点、小テスト、課題、リングポルタ(テキストの語彙集参照)、期末試験(授業内容に加えて、TOEICの実力問題を含む)を総合して評価する。

テキスト(教科書):

① *Fast Pass for the TOEIC L&R Test, Revised Edition*, Ritsuko Uenaka and Seiko Korechika 著、Cengage Learning、2019。  
ISBN: 978-4-86312-350-2

② *Targat on Business and the TOEIC Test Vocabulary*, Kayoko Shiomi 他著、SEIBIDO、2015。

ISBN: 978-4-7919-3386-0

担当教員から履修者へのコメント:

授業へ積極的な参加を重視する。毎回テキストを使用します。語彙集はテスト範囲となります。テキスト2冊を必ず用意してください。オンライン授業の回数、方法などは初回授業(対面授業)で説明しますので必ず出席してください。

---

英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

English through Content: Comic Book History and Culture [C]

春学期・秋学期: 木1

カーンス, ハリー D.

---

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

In this class, students will develop English language skills while learning about the fascinating history and culture of comic books. This course is a content-based language class designed to build vocabulary, reading, critical thinking, and discussion skills. Classes will start with a short lecture covering the assigned reading topic. Students will develop English listening and note taking skills through participating in these lectures. After the lectures, students will work on their speaking skills and critical thinking skills by leading and taking part in discussions and group activities about the assigned reading and lecture topics.

In the spring semester the class will focus on the development of comics in America, the birthplace of the medium. In the Fall semester the class will explore the other major comic book cultures of the world and how they have influenced each other and pop culture.

授業の計画:

Session 1: Introduction/ What are comics?  
Session 2: Sequential Art and Early Comics  
Session 3: Quiz#1/Golden Age: Birth of Superheroes  
Session 4: Golden Age: Superheroes and WWII  
Session 5: Quiz #2/Silver Age: Marvel and Humanistic Heroes  
Session 6: Silver Age: Counter Culture Heroes  
Session 7: Quiz#3/Bronze Age: Change of Guard  
Session 8: Bronze Age: Heroes and Social Commentary  
Session 9: Bronze Age: Heroes and Social Commentary  
Session 10: Quiz#4/ Dark Age: The British Invasion and Anti-Heroes  
Session 11: Age: The rise of Creators, Image Comics, and the Bubble Bursts  
Session 12: new Golden Age? Superheroes Movies and the Future of Comics  
Session 13: Semester Review  
Session 14: Wrap Up

Other: Office hours, assignments

Session 15: Introduction and review of Sequential art  
Session 16: Review of American comic book history  
Session 17: American Comic's impact on pop culture  
Session 18: Quiz#1 / Franco-Belgium Comics: Early Bande Dessinee (BD)  
Session 19: Franco-Belgium Comics: Metal Hurlant and the 9th Art; Franco-Belgium BD's impact on pop culture  
Session 20: Quiz#2 / British Comics: From The Dandy to The Eagle  
Session 21: British Comics: Rise of Anti-Establishment; British Comics impact on pop culture  
Session 22: Quiz#3/ Overview of Japanese Manga History  
Session 23: Japanese Manga Group Research Project, Brainstorming  
Session 24: Japanese Manga Group Research Project, Outlining  
Session 25: Japanese Manga Group Research Project, Rough Draft  
Session 26: Project Presentations and Papers  
Session 27: Semester Review and Quiz#4  
Session 28: Wrap Up

Other: office hours, assignments

成績評価方法:

Grades based on quizzes conducted in class, class participation, and submitted coursework

テキスト(教科書):

There are no prescribed textbooks. Readings will be distributed by the instructor.

担当教員から履修者へのコメント:

Details about class readings and worksheets will be provided at Class Support in the first week of classes.

---

英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

English through Content: Comic Book History and Culture [C]

春学期・秋学期: 木2

カーンス, ハリー D.

---

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

In this class, students will develop English language skills while learning about the fascinating history and culture of comic books. This course is a content-based language class designed to build vocabulary, reading, critical thinking, and discussion skills. Classes will start with a short lecture covering the assigned reading topic. Students will develop English listening and note taking skills through participating in these lectures. After the lectures, students will work on their speaking skills and critical thinking skills by leading and taking part in discussions and group activities about the assigned reading and lecture topics.

In the spring semester the class will focus on the development of comics in America, the birthplace of the medium. In the Fall semester the class will explore the other major comic book cultures of the world and how they have influenced each other and pop culture.

授業の計画:

Session 1: Introduction/ What are comics?  
Session 2: Sequential Art and Early Comics  
Session 3: Quiz#1/Golden Age: Birth of Superheroes  
Session 4: Golden Age: Superheroes and WWII  
Session 5: Quiz #2/Silver Age: Marvel and Humanistic Heroes  
Session 6: Silver Age: Counter Culture Heroes  
Session 7: Quiz#3/Bronze Age: Change of Guard  
Session 8: Bronze Age: Heroes and Social Commentary  
Session 9: Bronze Age: Heroes and Social Commentary  
Session 10: Quiz#4/ Dark Age: The British Invasion and Anti-Heroes  
Session 11: Age: The rise of Creators, Image Comics, and the Bubble Bursts  
Session 12: new Golden Age? Superheroes Movies and the Future of Comics  
Session 13: Semester Review  
Session 14: Wrap Up

Other: Office hours, assignments

Session 15: Introduction and review of Sequential art  
Session 16: Review of American comic book history  
Session 17: American Comic's impact on pop culture  
Session 18: Quiz#1 / Franco-Belgium Comics: Early Bande Dessinee (BD)  
Session 19: Franco-Belgium Comics: Metal Hurlant and the 9th Art; Franco-Belgium BD's impact on pop culture  
Session 20: Quiz#2 / British Comics: From The Dandy to The Eagle  
Session 21: British Comics: Rise of Anti-Establishment; British Comics impact on pop culture  
Session 22: Quiz#3/ Overview of Japanese Manga History  
Session 23: Japanese Manga Group Research Project, Brainstorming  
Session 24: Japanese Manga Group Research Project, Outlining  
Session 25: Japanese Manga Group Research Project, Rough Draft  
Session 26: Project Presentations and Papers  
Session 27: Semester Review and Quiz#4  
Session 28: Wrap Up

Other: office hours, assignments

成績評価方法:

Grades based on quizzes conducted in class, class participation, and submitted coursework

テキスト(教科書):

There are no prescribed textbooks. Readings will be distributed by the instructor.

担当教員から履修者へのコメント:

Details about class readings and worksheets will be provided at Class Support in the first week of classes.

---

### 英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

### 英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

ニュース英語を聞く・読む・考える [C][P]

春学期・秋学期: 木3/木4

神徳 敦子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

・アメリカの実際のTVニュースを教材に、リスニング・リーディングを中心に演習を行います。

・リスニング練習、ニュース本文の精読、テキストの問題を解いて英文や内容の理解を深め、

ニュースに関連した身近な話題についてコメントを書く等、総合的な演習の授業です。

・リスニングでは、大意把握を重視する他、指示やヒントを元に、自主的な練習も加え、リスニング力の向上を目指します。

・リーディング作業には関連情報のリサーチも含み、自力で記事を読みこなす力をつけることを目標とします。

・記事や資料を用いて、1学期に1度ずつ、社会問題等について経験や意見文を書くことを課します。

・コロナ状況下、グループ作業、短い発表、会話、英字新聞読解など、可能であれば取り入れる予定。

授業の計画:

【春学期】

第1回 introduction, basic listening skills

第2回 basic listening skills2 + reading

第3回 listening + further practice

第4回 listening + further practice

第5回 review + preparation for the new unit

第6回 listening(basic) + reading

第7回 listening + further practice

第8回 listening + further practice

第9回 review + preparation for the new unit

第10回 listening(basic) + reading

第11回 listening + further practice

第12回 listening + further practice

第13回 review

第14回 further practice + writing

その他 short essay(assignment)

【秋学期】

第1回 Introduction + preparation for the new unit

第2回 listening(basic)+ reading

第3回 listening + further practice

第4回 listening + further practice

第5回 review + preparation for the new unit

第6回 listening(basic) + reading

第7回 listening + further practice

第8回 listening + further practice

第9回 review + preparation for the new unit

第10回 listening(basic) + reading

第11回 listening + further practice

第12回 listening + further practice

第13回 review

第14回 further practice + writing

その他 short essay(assignment)

成績評価方法:

小規模のテスト(リスニング、復習テスト)、短いコメントのwriting等を採点し、

及び、最後に提出するshort essayの評価を加えて、全体の評価とします。

評点をつける対象の詳細内容や提出期限は、授業で指示を出します。

テキスト(教科書):

S.Yamane, K.yamane, Broadcast: ABC World News Tonight 4

(映像で学ぶABCワールドニュース4) Kinseido(金星堂)

ISBN 978-4-7647-4145-4

担当教員から履修者へのコメント:

・初回は対面授業を行います。

・対面授業とオンライン授業(オンデマンド)の併用の予定。詳細は初回時に指示します。

(コロナ状況により、授業の形態/内容/方法など、事前に通知の上、変更もあり得ます)

・4技能を互いに関連させ合いながら学習することが大切です。

・読解の作業はただ意味がわかればよいのではなく、正確な読みと、理解した語彙・熟語・文法をアウトプットに活かすことを意識して学習しましょう。

・毎回予習復習が必要です(テキストの映像を見て行う作業は予習必須)

・必要に応じて積極的に英英辞典を引きましょう。

---

### 英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

### 英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

BBCで聴く・見る最新のニュース[C][P]

春学期・秋学期: 金2/金3

小竹 直

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

本講義では、BBCで報じられるニュースを用いて、英語力の向上を目指します。既存のテキストではなく、できる限り直近に報じられたニュースを取り上げ、イギリス英語を中心としたリスニング力の向上を第一の目的とします。また幅広い内容の英語ニュースに触れることで、時事問題を英語で考えることをより身近なものにすることを目標とします。

授業は、受講者による発表と毎週課される課題について確認・解説を中心に進めていきます。春学期の発表はBBC Radio 4の主要ニュース番組であるSix O'Clock NewsのHeadlines(ニュースの冒頭約1分でのその日の主なニュースの見出しを読み上げたもの)を題材にし、ニュース英語特有の語彙を増やし、イギリスの政治・社会状況を身近なものにしていきます。秋学期は、個々のテレビニュースを題材とし、英語・内容ともに掘り下げた発表を行います。

各回の課題はBBCのテレビニュースから題材を選びます。政治・経済という狭い意味での時事問題にとらわれず、文化・スポーツ・芸能なども含め、受講者の関心を考慮しながら選ぶ予定です。2020年度以降はコロナウィルスの話題が多くなりましたが、できる限り偏りのないよう工夫しながら進めました。今年度も幅広い話題を取り扱うよう心がけます。

発表・課題ともに、リスニングが中心になり、毎回ディクテーションの予習を行うことが前提となります。またニュース英語に頻繁に用いられる語彙や表現については、ハンドアウトでまとめ繰り返し確認し身につけていきます。英語ニュースを聴き、内容が理解でき、さらに独力で内容を詳しく調べることができるようになることを目標とします。

(授業形式について)

2020~21年度はオンライン授業でしたが、今年度は、大学の指示に従いながら、対面授業での実施を予定しております。ただし、オンライン授業で利用した資料配布方法や解説ビデオの配信など、対面授業との併用が有効と思われるものについては、積極的に採用し公開していきたいと思っています。

授業の計画:

【春学期】

第1回 イントロダクション

第2回 リスニング課題1・プレゼンテーション

第3回 リスニング課題2・プレゼンテーション

第4回 リスニング課題3・プレゼンテーション

第5回 リスニング課題4・プレゼンテーション

- 第6回 リスニング課題5・プレゼンテーション
- 第7回 リスニング課題6・プレゼンテーション
- 第8回 リスニング課題7・プレゼンテーション
- 第9回 リスニング課題8・プレゼンテーション
- 第10回 リスニング課題9・プレゼンテーション
- 第11回 リスニング課題10・プレゼンテーション
- 第12回 リスニング課題11・プレゼンテーション
- 第13回 リスニング課題12・プレゼンテーション
- 第14回 総括・学期末試験
- その他 補足説明・ふりかえり

【秋学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 リスニング課題1・プレゼンテーション
- 第3回 リスニング課題2・プレゼンテーション
- 第4回 リスニング課題3・プレゼンテーション
- 第5回 リスニング課題4・プレゼンテーション
- 第6回 リスニング課題5・プレゼンテーション
- 第7回 リスニング課題6・プレゼンテーション
- 第8回 リスニング課題7・プレゼンテーション
- 第9回 リスニング課題8・プレゼンテーション
- 第10回 リスニング課題9・プレゼンテーション
- 第11回 リスニング課題10・プレゼンテーション
- 第12回 リスニング課題11・プレゼンテーション
- 第13回 リスニング課題12・プレゼンテーション
- 第14回 総括・学期末試験
- その他 補足説明・ふりかえり

成績評価方法:

期末試験(50%)、プレゼンテーション(25%)、平常点[出席、予習・授業中の学習状況](25%) (平常点では特に毎回の予習課題の取り組みが重要になります)

テキスト(教科書):

教科書は特にありません。教室で配布するハンドアウトのほか、教材・資料はkeio.jp(Box)上に配布します。詳細は初回授業で丁寧に説明いたします。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント:

授業形式は、【対面授業】となります。ただしオンライン授業の経験をもとに、補足解説動画など、学習に有効と思われるオンデマンド式の資料も併せて公開していく予定です。

予習が必須の授業となります。毎週の予習として取り組んだ課題を事前提出し、授業(+補足説明用のオンデマンド動画)で確認作業をすることで学習効果を高めてもらう形になります。予習・復習それぞれ30分~1時間程度必要になります。

さまざまなトピックを積極的に楽しむ好奇心を持った学生の参加を希望します。現時点でのリスニング力は問いません。粘り強くリスニングに取り組むことが必要となります。

質問・相談:

授業前後に質問を受け付けるほか、メールでご連絡も歓迎です。アドレスは初回授業でご案内いたします。

---

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

ニューヨーク・タイムズの記事を読む [C] [P]

春学期・秋学期: 木3/木4/木5

佐藤 直子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業ではThe New York Timesの記事を読み、現代社会を生きる我々が日々直面するさまざまな問題について考えたいと思います。記事のトピックは労働問題、政治的分断、ポスト真実、キャンセル・カルチャー、言論の自由、ジェンダー・ニュートラルな代名詞など、意見の分かれるものばかりです。授業では皆さんに順番に英文を訳してもらいながら、記事を理解するのに必要な文法や文化的背景知識を説明します。授業の最後にはトピックに関する自らの意見を口頭でもしくは英文エッセイで表してもらいます。英文を正確に読み、

自らの意見を英語で的確に表現する力を身につけることが、この授業の到達目標です。

授業の計画:

【春学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 The Paradox of Art as Work (1)
- 第3回 The Paradox of Art as Work (2)
- 第4回 Why Are Young People Pretending to Love Work? (1)
- 第5回 Why Are Young People Pretending to Love Work? (2)
- 第6回 Even With a Dream Job, You Can Be Antiwork (1)
- 第7回 Even With a Dream Job, You Can Be Antiwork (2)
- 第8回 The Psychology of Political Polarization (1)
- 第9回 The Psychology of Political Polarization (2)
- 第10回 Here's the Mind-Set That's Tearing Us Apart (1)
- 第11回 Here's the Mind-Set That's Tearing Us Apart (2)
- 第12回 Go Ahead, Speak for Yourself (1)
- 第13回 Go Ahead, Speak for Yourself (2)
- 第14回 春学期のまとめと期末試験
- その他 課題

【秋学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 How the Internet Is Loosening Our Grip on the Truth (1)
- 第3回 How the Internet Is Loosening Our Grip on the Truth (2)
- 第4回 A Different Way of Thinking About Cancel Culture (1)
- 第5回 A Different Way of Thinking About Cancel Culture (2)
- 第6回 Why Are Millennials Wary of Freedom? (1)
- 第7回 Why Are Millennials Wary of Freedom? (2)
- 第8回 A Frenzy of Book Banning (1)
- 第9回 A Frenzy of Book Banning (2)
- 第10回 Why 'Cool' Is Still Cool (1)
- 第11回 Why 'Cool' Is Still Cool (2)
- 第12回 Up in Arms Over a Pronoun (1)
- 第13回 Up in Arms Over a Pronoun (2)
- 第14回 秋学期のまとめと期末試験
- その他 課題

成績評価方法:

授業内活動(40%)

課題提出(30%)

期末試験(30%)

テキスト(教科書):

教科書は使用しません。プリントをこちらで用意し、配布します。

担当教員から履修者へのコメント:

授業では予め指定された範囲のテキストを読み、課題を提出することがもとめられます。

初回授業を含む全授業を対面で実施します。

質問・相談:

質問や相談はメールで、もしくは授業の前後に受けつけます。

---

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

翻訳演習[C]

春学期・秋学期: 金2/金3

坪野 圭介

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業では、さまざまなジャンルのテキストを英語から日本語に翻訳します。毎回、作成してもらった訳文をもとに議論をおこない、より質の高い訳文に仕上げることを目指します。英語を丁寧に読む力、原文の特徴を踏まえた日本語に直す力を身につけましょう。

授業の計画:

【春学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 翻訳とはなにか考える
- 第3回 翻訳の実践と議論(広告・キャッチコピー)
- 第4回 翻訳の実践と議論(漫画)
- 第5回 翻訳の実践と議論(漫画)
- 第6回 翻訳の実践と議論(絵本)
- 第7回 翻訳の実践と議論(絵本)
- 第8回 翻訳の実践と議論(ニュース)

- 第9回 翻訳の実践と議論 (観光案内)
- 第10回 翻訳の実践と議論 (詩)
- 第11回 翻訳の実践と議論 (詩)
- 第12回 翻訳の実践と議論 (掌編小説)
- 第13回 翻訳の実践と議論 (掌編小説)
- 第14回 まとめ
- その他 課題・レポート

【秋学期】

- 第1回 春学期のふりかえり
- 第2回 翻訳の理論と歴史
- 第3回 翻訳の実践と議論 (言葉遊び)
- 第4回 翻訳の実践と議論 (困難な翻訳)
- 第5回 翻訳の実践と議論 (超短編)
- 第6回 翻訳の実践と議論 (童話)
- 第7回 翻訳の実践と議論 (インタビュー)
- 第8回 翻訳の実践と議論 (批評)
- 第9回 翻訳の実践と議論 (エッセイ)
- 第10回 翻訳の実践と議論 (論文)
- 第11回 翻訳の実践と議論 (詩)
- 第12回 翻訳の実践と議論 (歌詞)
- 第13回 翻訳の実践と議論 (短編小説)
- 第14回 まとめ
- その他 課題・レポート

成績評価方法:

翻訳課題 (50%)、授業参加 (30%)、レポート (20%)

テキスト(教科書):

授業内で資料を配布します。

参考書:

『21世紀×アメリカ小説×翻訳演習』藤井光著 研究社 2019年  
ISBN: 978-4-327-45290-2

担当教員から履修者へのコメント:

毎回課題の訳文を提出してください。作成してもらった訳文をもとに授業内で議論をおこないます (オンライン授業の場合、コメントの書き込みを授業までにおこなってもらいます)。期末レポートは添削して返却します。訳文の作成に際しては、辞書やインターネット等を使って、不明点をしっかり調べるようにしましょう。

授業は対面実施を基本とし、適宜オンライン授業 (オンデマンド形式) の回を取り入れる可能性があります。初回は対面で実施します。

質問・相談:

メールで随時受け付けます (メールアドレスは授業内でお伝えします)。

---

英語第Ⅲ 1 単位 (春学期)

英語第Ⅲ 1 単位 (秋学期)

現代英米評論 [C]

春学期・秋学期: 金1/金2

道家 美紀子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業では1500wds程度の論文を読み解きの確にまとめる力を付けることをねらいとします。テーマは知的刺激に富むもので、脳科学、メディアの印象操作、大戦後世界を席卷するアメリカ文化、対称性の科学、資本主義経済、パッケージ、中世の美術、などと多岐にわたりますが、極度に専門性が高いわけではなく大学生の各分野への最適な入口レベルといえます。また英語の難易度や文体も様々で、多様な文章にふれることが可能です。前期は様々なトピックを、後期は資本主義と現代文化を中心にピックアップしてテーマに統一性を持たせて読んでいきます。理解を深める資料を動画、ハンドアウトの形で追加します。

授業に臨む前に用意された資料に目を配り与えられた小課題をすることで、論文の内容を把握してることが要求されます。授業では構成や内容を正確に分析しエッセイに関しての問題を考えることで、さらに深い理解をめざしたいと思います。

授業の計画:

Spring Semester

Week 1: Introduction to the course

Week 2: What Is Sleep for Thom Geier

Week 3: What Is Sleep for

Week 4: Annotated Art Robert Cumming

Week 5: Annotated Art

Week 6: A City without Walls Jianying Zha

Week 7: A City without Walls

Week 8: Mapping the Whole World Peter Whitfield

Week 9: Mapping the Whole World

Week 10: Symmetry Breaking Ian Stewart

Week 11: Symmetry Breaking

Week 12: Reading National Geographic C.A.Lutz and J.L.Collins

Week 13: Reading National Geographic

Week 14: Review and Exam

Other: Supplementary instruction

Fall Semester

Week 1: Living in a Packaged World Thomas Heine

Week 2: Living in a Packaged World

Week 3: Living in a Packaged World

Week 4: Living in a Packaged World + The Total Package

Week 5: Consumption as a Way of Life Stuart & Elizabeth Ewen

Week 6: Consumption as a Way of Life

Week 7: Consumption as a Way of Life

Week 8: Consumption as a Way of Life + Feudalism vs Capitalism

Week 9: Birth of Mas Culture Gerald Early

Week 10: Birth of Mas Culture

Week 11: Birth of Mas Culture + WWI

Week 12: Birth of Mas Culture + Modernism

Week 13: Birth of Mas Culture + Modernism

Week 14: Review and Exam

Other: Supplementary instruction

成績評価方法:

成績は出席、平常点(小テスト、クラス内での発言)、提出物、期末テストの総合評価です。

テキスト(教科書):

東京大学教養学部英語部会編 *The Universe of English II* .

東京大学出版会 2006年 1900円

ISBN: 4-13-082103-2

参考書:

講義中に指示します。

事前にCanvasにアップすることもあります。

担当教員から履修者へのコメント:

必ず予習、準備をして、出席すること。30分以上の遅刻は欠席とみなします。四回以上の欠席で失格とします。

授業は対面実施を基本とし、オンラインによる授業回は数回程度の予定です。

なお初回授業は対面です。

質問・相談:

質問、相談は授業前後、またメール(m.doke@a8.keio.jp)で受け付けます。

---

英語第Ⅲ 1 単位 (春学期)

英語第Ⅲ 1 単位 (秋学期)

Kelly Reichardt の映画と Jon Raymond の原作小説[C][P]

春学期・秋学期: 木3/木4

冨塚 亮平

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この演習では、現代アメリカのいくつかの小説を読み、それらを原作とする映画を鑑賞する中で、その内容について議論してもらいます。近年日本でも紹介が進みつつあるアメリカの女性監督である Kelly Reichardt の映画で原作として使用された Jon Raymond の小説から、前期は短篇を二本、後期は長篇を読みます。

授業では毎週英語の文献 (小説、review、インタビューなど) を読み、それに基づいた議論(演習)を行います。また、必要に応じて授業内で扱った作品と関連する映画も教材として扱います。履修人数次第で変動の可能性もありますが、各セメスターで一人2回の口頭発表と期末レポートの提出をしてもらう予定です。

到達目標は下記の通りです。

小説やレビューの内容を原文で正確に理解することで英語リーディングの基礎力を高めます。また、人種・性・階級に関する議論を始

めとする現代の社会・政治を巡る理論の基礎的な知識を修得することで、私たちの生きる社会および文化作品を批判的に分析する方法を獲得します。加えて、授業内でディスカッションを行うことで、自らの意見を正確に他者に伝える学問的なコミュニケーション能力を高めます。

#### 授業の計画:

##### 前期

- 第1回 Introduction (この授業について、自己紹介、発表担当決定)
- 第2回 発表サンプル (情報の調べ方、引用・分析の方法)
- 第3回 Old Joy 1
- 第4回 Old Joy 2
- 第5回 Old Joy 3(映画)
- 第6回 Old Joy 4
- 第7回 関連review、interview
- 第8回 Train Choir 1
- 第9回 Train Choir 2
- 第10回 Train Choir 3
- 第11回 Train Choir 4(映画 Wendy and Lucy)
- 第12回 Train Choir 5
- 第13回 関連review、interview
- 第14回 まとめ、レポート中間発表
- その他 前期レポート提出

##### 後期

- 第1回 Introduction (前期振り返り、発表担当決定)
- 第2回 The Half-Life 1
- 第3回 The Half-Life 2
- 第4回 The Half-Life 3
- 第5回 The Half-Life 4
- 第6回 The Half-Life 5
- 第7回 The Half-Life 6
- 第8回 The Half-Life 7
- 第9回 The Half-Life 8
- 第10回 The Half-Life 9
- 第11回 The Half-Life 10 (映画 First Cow)
- 第12回 The Half-Life 11
- 第13回 関連review、interview
- 第14回 まとめ、レポート中間発表
- その他 後期レポート提出

#### 成績評価方法:

授業への貢献度(ディスカッション等) 30%

プレゼンテーション 20%

期末レポート 50% (25x2)

#### テキスト(教科書):

##### 前期

Jon Raymond, *The Livability: Stories*. Bloomsbury, 2008. ←配布します。

##### 後期

Jon Raymond, *The Half-Life: A Novel*. Bloomsbury, 2004. ←購入してください。紙が絶版状態で中古価格も高騰しているため、生協には入っていません。電子版推奨。

購入する資料については、紙、電子いずれでも使用しやすい方で結構です。

#### 参考書:

蓮實重彦、遠山純生、長島有里枝、町山広美、村尾泰郎、古谷田奈月、冨塚亮平、ニール父、王谷晶、マキヒロチ、夏目知幸、柴田元幸、川本徹、樋口泰人「ケリー・ライカートの映画たち 漂流のアメリカ」プログラム シマフィルム、2021年。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

授業内発表については当日口頭でコメントを、レポートに対しては個別にテキスト形式でフィードバックを行います。

また各学期最終回にはレポートのテーマについて簡単に発表してもらおう機会を設ける予定です。そこでも参照すべき文献や議論の方向性について口頭でコメントを行います。

授業形式は現状では対面を予定していますが、感染状況次第ではZoomを使用した双方向授業となる可能性もあります。

予習・復習は当日の授業範囲の英文を読むことと議論の振り返りでそれぞれ二時間ほど。

可能な限り誰でも議論に参加でき、思ったことを自由に発言できる空間を作りたいと望んでいます。私も最善を尽くしますので、怖がらずに積極的に発言してください。ご協力よろしく願います。

#### 質問・相談:

質問は授業終了後およびCanvasやメール経由でも受け付けます。

---

#### 英語第Ⅲ 1単位(春学期)

#### 英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

BBC Newsで英語力を伸ばす[C][P]

春学期・秋学期: 木2

永嶋 友

---

#### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業はBBC Newsやその他の報道機関のニュースを使い、英語力を総合的に伸ばすことを目的としています。英語のニュースについて読み・聴き・書き・話すことで、英語で時事問題を正しく理解し、適切に要約・編集し伝え、アカデミックな意見を述べる能力の獲得を目指します。最近のBBC Newsのニュースを扱う*British News Update 3*を教科書とし、BBC Newsやその他の報道機関の最近のニュースを追加資料として使用します。また、教科書と追加資料のニュースに対するコメント作成、最近の英語ニュースを報告するスピーチと質疑応答、他の参加者のスピーチに対するフィードバックにも取り組んでもらいます。スピーチは1学期に2回してもらいます。学期末のレポートでは、教科書、追加資料、皆さんの考えや調査をもとに、短い英文エッセーを3つ作成してもらおう予定です。授業は基本的に対面形式で進めますが、第3, 4, 5, 9, 10, 14回はオンデマンド授業となります。授業に関する連絡や資料の配布はCanvasを通して行います。

#### 授業の計画:

##### 【春学期】

第1回: イントロダクション、教科書 (対面授業)

第2回: 教科書 (対面授業)

第3回: 追加資料 (オンデマンド)

第4回: 追加資料 (オンデマンド)

第5回: 追加資料 (オンデマンド)

第6回: スピーチ発表会1 (対面授業)

第7回: スピーチ発表会1 (対面授業)

第8回: 教科書 (対面授業)

第9回: 追加資料 (オンデマンド)

第10回: 追加資料 (オンデマンド)

第11回: スピーチ発表会2 (対面授業)

第12回: スピーチ発表会2 (対面授業)

第13回: 教科書 (対面授業)

第14回: 総括、オフィスアワー (オンデマンド)

その他: 授業外でスピーチと期末レポートの準備

\*教科書で扱う章については皆さんと相談の上決定します

##### 【秋学期】

第1回: イントロダクション、教科書 (対面授業)

第2回: 教科書 (対面授業)

第3回: 追加資料 (オンデマンド)

第4回: 追加資料 (オンデマンド)

第5回: 追加資料 (オンデマンド)

第6回: スピーチ発表会1 (対面授業)

第7回: スピーチ発表会1 (対面授業)

第8回: 教科書 (対面授業)

第9回: 追加資料 (オンデマンド)

第10回: 追加資料 (オンデマンド)

第11回: スピーチ発表会2 (対面授業)

第12回: スピーチ発表会2 (対面授業)

第13回: 教科書 (対面授業)

第14回: 総括、オフィスアワー (オンデマンド)

その他: 授業外でスピーチと期末レポートの準備

\*教科書で扱う章については皆さんと相談の上決定します

#### 成績評価方法:

平常点 (出席状況、コメント、フィードバックシートなど)、スピーチ、期末レポートで評価をします。平常点: スピーチ: 期末レポート=25:30:45の割合とします。

テキスト(教科書):

Timothy Knowles / 田村真弓 / 田中みんね / 中村美帆子編著 『British News Update 3: 映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース3』 金星堂 2021年 ISBN: 978-4-7647-4116-4

質問・相談:

ご質問・ご相談は、yu.nagashima★keio.jp (★を@に変換) までメールをお願いします。

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

SF映画と未来予知 [C]

春学期・秋学期: 木3/木4

難波 阿丹

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

本授業では、アメリカのSF小説家Philip K. Dickの短編小説を原作とする『トータル・リコール』および『マイノリティ・リポート』等の映画化作品の鑑賞と、「未来予知」に関連する原作小説の精読による、総合的な英語力の向上を目的としています。

授業の前半では、Dick作品を原作とするSF映画のいくつかのシーンと小説との比較を通して、特徴的な英語の言い回しを理解します。そして、授業の後半では、Dickの小説で「未来予知」に関連する項目を集中的に読解し、英語のボキャブラリーを増やします。また、小説に登場するキャラクターの特徴や物語展開を要約することで、リーディング力とライティング力を高めます。

本授業の進め方は開講時に説明します。

授業の計画:

【春学期】

1. Introduction: Philip K. Dickに関する説明
2. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
3. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
4. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
5. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
6. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
7. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
8. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
9. 『教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
10. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
11. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
12. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
13. 教科書『We Can Remember It for You Wholesale』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
14. 最終レポート

その他  
補講

【秋学期】

1. Introduction: Philip K. DickとSF小説
2. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
3. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
4. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
5. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
6. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
7. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
8. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
9. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
10. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
11. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
12. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
13. 教科書『The Minority Report』精読  
テキストを予習し、わからない単語の意味を調べること。
14. 最終レポート

その他

補講

成績評価方法:

以下の要素による総合評価

(1) 出席と授業への貢献 60%

(2) レポート 40%

テキスト(教科書):

Philip, K, Dick.(2014) *13 Short Stories by Philip K. Dick*, Running Press.

Philip, K, Dick.(2010) *Valis*, Gateway.

参考書:

Philip, K, Dick.(2010) *Do Androids Dream of Electric Sheep?*, Gateway.

Philip, K, Dick.(2014) *We Can Remember It for You Wholesale*, Gateway.

Philip, K, Dick.(2017) *The Minority Report*, Gollancz.

担当教員から履修者へのコメント:

・事前に配布する小説のテキストを読み、映画を視聴しておくこと。  
小説はKindle版で読むことが出来ます。また、映画は、可能であればDVDを購入して、繰り返し視聴しましょう。

質問・相談:

質問や相談がある場合は、教室内もしくはEメール(anni.namba@keio.jp)にて受け付けます。

英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

サスペンス小説講読 [C]  
春学期・秋学期: 金 1

新名 ますみ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

サスペンス小説を読みながら、英語の豊かな表現を学びます。優れた作品には、緊迫感あふれる筋書きに加え、人物の心理描写や巧まざるユーモアが重要な要素となっていることが多いものです。それを楽しみながら読むことで洞察力や表現力を磨き、一語一語をおろそかにせず行間を読む力を習得します。内容も「お節介で口うるさい老婦人が『目撃』した事件! その犯人に対し彼女がとった行動が波紋を呼び……」など、退屈しないで読んでいける筋書きとなっています。

授業は、①和訳を事前に提出した上で、②和訳、文法、内容理解については、授業中に意見を出し合いながら進め、③次回の授業で(又は次回の授業までに)復習ミニテストを行う、という形で進めていきます。和訳は採点した上でフィードバックしますし、優秀なものについては授業内で紹介していきますので、時間をかけて取り組みましょう。なお、より豊かに英文を理解するために、テキストの朗読も適宜取り上げる予定です。

授業の計画:

春学期

- 第1回 授業についての説明、小説講読における心構えなど
  - 第2回 短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第3回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第4回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第5回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第6回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第7回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第8回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第9回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第10回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第11回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第12回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第13回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
  - 第14回 復習小テスト。授業の進度に応じて試験、解説、振り返り、まとめを行う。
- その他 春学期に読んできた小説の残りページ、又は新たな小説の翻訳をレポートとして課す。

秋学期

- 第1回 短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第2回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第3回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第4回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第5回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第6回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第7回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。
- 第8回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第9回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第10回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第11回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第12回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第13回 復習テスト。短編小説の解釈、理解、意見交換、朗読の練習。

第14回 復習小テスト。授業の進度に応じて試験、解説、振り返り、まとめを行う。

その他 秋学期に読んできた小説の残りページ、又は新たな小説の翻訳をレポートとして課す。

成績評価方法:

和訳(事前提出): 30%

授業中のパフォーマンス(発言・朗読など): 40%

試験(復習テストを含む): 30%

テキスト(教科書):

プリント(授業時に配布、又はCANVAS上にて公開します)

参考書:

授業中に適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント:

- ・この授業は全回において対面授業を予定しています。
- ・テキストの和訳を入念な準備の上で全員に提出してもらうので、綿密な英文和訳や精読に興味のある学生を歓迎します。単なる逐語訳以上の和訳のために予習は2時間程度、復習は毎回の小テストのために1時間程度は行いましょう。
- ・フィードバックについては、試験の解説は授業内で行い、結果や成績はCANVASから個別にお知らせします。

質問・相談:

CANVASのメールシステムを利用するか、或いは下記のメールアドレスに連絡してください。

m-niina@keio.jp

英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

多様なジャンルの英語を読んで訳す [C]

春学期・秋学期: 金3/金4

野中 大輔

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業では、様々なジャンルの英語文章を日本語に訳す演習を行います。それほど難しくないように見える英文でも、いざ日本語にしようとするとうまく訳せず、意外と読めていなかったことに気づく、ということがあるものです。スムーズに英文が読めなかった原因を見つけ(文法・語法の知識が不足している場合もあれば、論理展開を追えていなかったということもあるでしょう)、それを補うために必要な技術(辞書の使い方、ウェブ上で英語表現を検索するやり方など)を知って、自律的な英語学習ができるようになることを目指します。また、日本語に訳すことを通じて、よい日本語(自然な日本語、読みやすい日本語、誤解を招かない日本語)を書く訓練をすると同時に、日英語の違いについて考察する場にもしたいと思っています。講師の専門が言語学なので、言語学の視点から日英語の仕組みについて考えることも取り入れるつもりです。扱う英文は、物語、ニュース、科学記事(言語学を含む)、レシピなどを予定しています。ジャンルによって必要な知識が異なることを知り、今後のそれぞれの学習に必要なジャンルの読み方を考えてもらうことも狙いの一つです。翻訳課題の提出が複数回求められます。

授業の計画:

【春学期】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 読解・翻訳のポイント1
- 第3回 読解・翻訳のポイント2
- 第4回 翻訳演習1
- 第5回 翻訳演習2
- 第6回 翻訳演習3
- 第7回 翻訳演習4
- 第8回 翻訳演習5
- 第9回 翻訳演習6

- 第10回 翻訳演習 7
- 第11回 翻訳演習 8
- 第12回 翻訳演習 9
- 第13回 翻訳演習 1 0
- 第14回 まとめ
- その他 翻訳課題・レポート

【秋学期】

- 第1回 読解・翻訳のポイント
- 第2回 翻訳演習 1
- 第3回 翻訳演習 2
- 第4回 翻訳演習 3
- 第5回 翻訳演習 4
- 第6回 翻訳演習 5
- 第7回 翻訳演習 6
- 第8回 翻訳演習 7
- 第9回 翻訳演習 8
- 第10回 翻訳演習 9
- 第11回 翻訳演習 1 0
- 第12回 翻訳演習 1 1
- 第13回 翻訳演習 1 2
- 第14回 まとめ
- その他 翻訳課題・レポート

成績評価方法:

翻訳課題・レポート

テキスト(教科書):

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

担当教員から履修者へのコメント:

翻訳課題とレポートの提出が求められます。言語学に関心がある人は歓迎です(言語学の視点から日本語・英語について見つめ直したい人、言語学の知識を実際に活かして何かしてみたい人など)。ただし、言語学の事前知識は一切必要ありません。講師が実際に翻訳書を出したときに注意したこと、工夫したことなども話してみたいと思います。授業は対面で実施します。

質問・相談:

講義の前後に随時受け付けます。メール等でも構いません。

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

英語音声学の基礎と発音演習[C][P]

春学期・秋学期: 土2

平賀 優子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業では、英語の正しい発音(\*1)を身につけることで、聴解力を向上させることをねらいとしています。発音理解、習得の方法論としては、模倣から学ぶだけでなく、音声学の理論(IPA:International Phonetic Alphabetなど)を用います。主に日本人が不得意とする音素を徹底的に練習し、「カタカナ英語」「日本人英語」からの脱却を目指します。聴解練習では、アメリカ英語以外のナショナルバラエティー(イギリス英語、オーストラリア英語)も扱います。また、今後留学や資格試験などをを目指す人は授業後も継続して自学ができるよう、授業内では英語学習の方法を随時紹介していきます。

\*1(授業では主にGA:General Americanをモデルとする)

授業の計画:

【春学期】

- 第1回 発音のしくみ(1)
- 第2回 発音のしくみ(2)
- 第3回 英語の母音(1)
- 第4回 英語の母音(2)
- 第5回 英語の母音(3)
- 第6回 英語の母音(4)
- 第7回 英語の母音(5)
- 第8回 英語の子音(1)
- 第9回 英語の子音(2)
- 第10回 英語の子音(3)
- 第11回 英語の子音(4)
- 第12回 英語の子音(5)
- 第13回 英語の子音(6)

- 第14回 試験・ふりかえり
- その他 課題

【秋学期】

- 第1回 英語の母音・子音 復習(1)
- 第2回 英語の母音・子音 復習(2)
- 第3回 世界の英語(1)
- 第4回 世界の英語(2)
- 第5回 音声変化(1)
- 第6回 音声変化(2)
- 第7回 音声変化(3)
- 第8回 音声変化(4)
- 第9回 音声変化(5)
- 第10回 総復習(1)
- 第11回 総復習(2)
- 第12回 総復習(3)
- 第13回 総復習(4)
- 第14回 試験・ふりかえり

その他 課題

成績評価方法:

試験、平常点

テキスト(教科書):

『こうすれば英語が開ける』中郷安浩、中郷慶共著 英宝社

参考書:

大学生のためのCNNニュースリスニング:SDGs編 朝日出版社

担当教員から履修者へのコメント:

積極的に授業に取り組んでください。

英語第Ⅲ 1単位(春学期)

英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

Active Reading:英語で多読、濫読、味読[C][P]

春学期・秋学期:金4/金5

深谷 素子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

英語で多読(たくさん読む)、濫読(多様なジャンルを読む)、味読(じっくり味わって読む)を実践することで、総合的な英語力、読書力を身につけます。

基本的な活動は、Extensive Reading(多読)です。自分のレベルに合った大量の英文を、母語で読書をするときのように内容理解を主な目的として読むことで、語彙力、読解力アップ、及び、大量のインプットによるアウトプット能力の増強を目指します。受講者は、class library、日吉メディアセンターやebook等で用意されている様々なレベルの本の中から、自分のレベルに合った本を選び、自分のペースで自由に読書します。日本語に訳さないで英語を理解すること、読書を楽しむこと、そしてたくさん読むことが主なルールです。最初の授業でレベルチェックテストを行い、どのレベルから読み始めるべきかを決めてからスタートしますので、英語をスラスラ読むのが苦手でも十分に参加可能です。

とはいえ、90分ずっと黙って読書をしていると必ず眠くなります。そこで、授業時間の半分は、アウトプット中心の活動を行います。お薦め本の紹介やディスカッションのほか、ブックトーク、ビブリオバトル、ポップづくり、ワールドカフェなどを通して、英語で書かれた文章の内容を味わいながら、各々の読後感を語り合います。春学期はまず量を読むことを主眼としますが、秋学期は「何をどう読むか」を念頭に置き、読書の質を高めていきたいと思います。目指すは、「英語を読む」ではなく、「本を読む、たまたま英語の本だけ」というレベルです。春、秋学期末にそれぞれ、英語によるブックレポートを課します。

着実に読める本のレベルを上げていくため、また各自の興味に合った本を選んで読んでいくために、春学期に個別面談(授業中に実施)を行います。

受講者全員が春秋学期通して100万語以上読むように指導しますので、ついてきてください。

使用する書籍は、日吉メディアセンターの本(紙の書籍と電子書籍)、教員が用意する本(紙の書籍と電子書籍)を縦横無尽に活用します。書籍の利用方法については、授業で詳しく指示します。

語彙力強化のためのエクササイズを追加する可能性があります。詳細は教室にて指示します。

### 【秋学期から受講する方に注意】

秋学期の授業内容は、春学期に本科目を受講していたことを前提としています。秋学期のみ受講する場合、ハンディがあることを了解の上で受講してください。

#### 授業の計画:

授業は対面で実施します。

ただし、感染状況が悪化した場合は、オンライン授業(Zoomによるライブ授業とCanvasを使った課題のやりとりの組み合わせ)に随時変更します。オンラインの場合は、必ずこの授業の曜日時刻には、PC、タブレットあるいはスマートホンの前に待機してください。

### 【春学期】

対面、オンラインにかかわらず、だいたい以下の内容をカバーします。授業内多読は、図書館や教員の本を借りて読む、あるいはPCやタブレットを使用してのebook読書となります。

- 第1回 イントロダクション(授業概要の説明、レベル診断テスト)
  - 第2回 多読用図書の紹介、読書記録入力方法、多読方法の説明
  - 第3回 授業内読書+レベルの確認+個別面談
  - 第4回 授業内読書+個別面談
  - 第5回 授業内読書+個別面談
  - 第6回 授業内読書+Book Talk #1
  - 第7回 授業内読書+個別面談
  - 第8回 授業内読書+個別面談
  - 第9回 授業内読書+Book Talk #2
  - 第10回 授業内多読+個別面談
  - 第11回 授業内多読+個別面談
  - 第12回 期末レポート(Book Report)の書き方指導+個別面談
  - 第13回 期末レポートの準備としてBook Talk #3
  - 第14回 達成語数、冊数の中間報告、夏休みの読書計画
- 7月末にCanvasへFinal Book Report提出。

その他 1週間に1回の読書記録の提出(Canvasにて)を課す。受講生は自律的に図書館で本を借りる、あるいはebookサイトで本を読み、50万語を目指すこと。授業外でも、毎日30分程度読書することが求められる。

### 【秋学期】

対面、オンライン授業にかかわらず、だいたい以下の内容をカバーします。授業内多読は、図書館や教員の本を借りて読む、あるいはPCやタブレットを使用してのebook読書となります。

- 第1回 夏休みに読んだ本についてBook Talk #4 + 授業内読書
- 第2回 春学期レポート講評+授業内読書
- 第3回 授業内読書
- 第4回 World Cafe Discussion に向けて短編小説を読む
- 第5回 Timed Reading
- 第6回 World Cafe Discussion
- 第7回 授業内読書+Free Writing
- 第8回 Popづくりの説明+授業内読書
- 第9回 Pop Contest
- 第10回 授業内読書
- 第11回 期末レポート(Book Report)の書き方指導
- 第12回 授業内読書
- 第13回 期末レポートの準備としてBook Talk#5
- 第14回 読解力判定テスト

1月末にCanvasへFinal Book Report提出、達成語数、冊数の最終報告、オンラインアンケート回答あり。

その他 2週間に1回の読書記録の提出(Canvasにて)を課す。受講生は自律的に図書館で本を借りる、あるいはebookサイトで本を読み、春学期と合わせて100万語を目指すこと。授業外でも、毎日30分程度読書することが求められる。

(ただし以上はあくまで目安ですので、新型コロナの感染状況、実際の授業の流れ、受講生の状況によって適宜変更の可能性があります。)

#### 成績評価方法:

出席(30%)、課題の提出、授業への参加度などを含めた平常点(30%)、学期末のブックレポート(40%)を総合的に見て評価します。

半期に3回以上欠席した場合、単位は与えません。授業内読書も評価対象となります。

#### 対面授業の場合

授業内読書中の私語、睡眠、スマホ、トイレ退出は大きな減点対象となります。また、4月の初回を除き、読む本を持参せずに授業に参加することはできません。欠席扱いとなりますので気をつけてください。

万一、オンライン授業に変更せざるを得なくなった場合

大学、あるいは自宅など学習に適した環境で受講してください。許可なくデヴァイスの前を離れていた場合は欠席扱いとなります。この授業の内容と関係ないことをしていた場合はかなり大きな減点となります。

出席確認は、Zoomにてチャット入力と顔出しでの点呼で行います。Canvasにアップされる毎週のお知らせや課題を必ず事前にチェックしてください。毎週授業時間に自宅で行うebook読書が重要な評価対象となります。

#### テキスト(教科書):

教材については教室で指示します。プリント教材は、教室配布、CanvasにPDFをアップします。Canvasは毎週必ずチェックしてください。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

1. 遅刻、欠席は厳禁。公欠は認めません。病欠、忌欠も欠席としてカウントされます。授業は出席するのが当たり前と考えてください。
2. 本を読むことがそもそも嫌いな方には、この学習法は向きません。ふだん、日本語でもほとんど本を読まない、情報収集の手段として拾い読みしかしない、という方にとっては時間の無駄です。逆に、英語で本を読んだことはないが、本を読んでいると心が落ち着く、読んだ本の内容について友達と語り合ったりするのが好きという方にはお薦めです。
3. この授業で多読の対象とするのは、英語の「本」です。新聞記事や雑誌の多読は授業では扱いませんので、希望者は自宅学習として各自行ってください。
4. 授業中の読書時間に、読書以外のこと(他の授業の予習や宿題、ダブルスクールのための勉強等)をしていた場合は教室を出てまいりますので、注意してください。授業中の読書態度はかなり大きな評価対象となります。
5. 読んでいない本を読んだと虚偽の報告をした場合、それが判明した時点で失格となります。
6. 教員と学生の間の連絡を密に取るために、メールやLINEを使用します。ご協力をお願いします。
7. 教室に来る前に、必ず図書館等で本を借りて持参してください。

#### <オンライン授業の場合>

上記の6番までは同様です。7番については主にebookを使用しますが、日吉メディアの書籍も適宜使用してください。

学習に適した場所からオンライン授業に参加するようにしてください。カフェやファストフード店、車の中などで受講することは原則認めません。どうしても止むを得ない場合は、事前に申し出ること。

#### 質問・相談:

質問、相談は、deepvalley@keio.jpまでお願いします。

### 英語第Ⅲ 1単位(春学期)

### 英語第Ⅲ 1単位(秋学期)

読み、書き、話し、そして聞く [C][P]

春学期・秋学期: 金1/金2

山根 亮一

#### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

この授業の受講者は、記事、映画、そして短編小説などの多様な英語に触れながら、自らの思考をアカデミックなかたちで表現する方法を学びます。リーディングだけではなく、ライティング、スピーキング、リスニングのエクササイズも行いますので、この授業を通じて受講者は英語でのコミュニケーション能力を向上させることができます。先ず春学期は、自分が読んだこと、または観たことを要約する能力、そして自分の意見を周囲の人に英語で説明する能力を習得します。そして秋学期には、それまでに培った説明、批評能力の更なる向上を目指すと同時に、ディスカッションで役立つ英語表現を練習します。以上のことを、基礎的なアカデミックライティング

グをじっくりと学びながら実践することで、結果として本授業の受講者は、英語圏の文化や歴史に親しむだけでなく、洗練された英語を実用的に使いこなせるようにもなります。

**授業の計画:**

**【春学期】**

- 第1回 Introduction, etc.
- 第2回 写真・イラスト・動画の説明、paraphraseについての練習
- 第3回 写真・イラスト・動画の説明、paraphraseについての練習
- 第4回 短い記事の説明、Summaryについての練習
- 第5回 短い記事の説明、Summaryについての練習
- 第6回 短い物語の内容説明、paragraph構成についての練習
- 第7回 短い物語の内容説明、paragraph構成についての練習
- 第8回 復習、レポート提出
- 第9回 演説の内容説明、批評
- 第10回 論文の内容説明、批評
- 第11回 短編小説の要約、批評 (Edgar Allan Poeを予定)
- 第12回 短編小説の要約、批評 (Ernest Hemingwayを予定)
- 第13回 Peer Review
- 第14回 総括・試験
- その他 課題・レポート

**【秋学期】**

- 第1回 Introduction, etc.
- 第2回 英語ディスカッションにおける司会の役割1 (発言テンプレートの整理)
- 第3回 英語ディスカッションにおける司会の役割2 (実践)
- 第4回 映画についての議論 1 (以下、トピックは暫定的なものとする。それぞれ、短い動画、記事、短編小説等を教材として用いる)
- 第5回 映画についての議論 2
- 第6回 法・制度についての議論 1
- 第7回 法・制度についての議論 2
- 第8回 復習、レポート提出
- 第9回 アメリカ文化についての議論 1
- 第10回 アメリカ文化についての議論 2
- 第11回 エンターテイメントについての議論 1
- 第12回 エンターテイメントについての議論 2
- 第13回 Peer Review
- 第14回 総括・試験
- その他 課題・レポート

**成績評価方法:**

春学期、秋学期2回の定期試験

授業内レポート

平常点: 出席状況と授業内演習における成果についての評価

**テキスト(教科書):**

プリント等を配布する。

---

**英語第Ⅲ 1単位(春学期)**

**英語第Ⅲ 1単位(秋学期)**

The Music of English P

春学期・秋学期: 木2

ヤング, ジェローム

**授業科目の内容・目的・方法・到達目標:**

The aim of this class is to help students improve their ability to communicate naturally in English. This course uses contemporary English lyric poetry, songs, as a way to deepen students' understanding of the natural rhythm of spoken English. Using songs from around the world will expose students to a variety of English dialects, cultural norms, political debates, and will also given them an opportunity to learn about and understand the historical circumstances that gave rise to various musical styles, genres.

Students will be encouraged to engage actively in learning songs--though no singing talent is required in this class. Students will be coached on how best to use lyric poetry to improve their spoken English. The goal of these oral exercises is to build student confidence in speaking English by improving students' pronunciation and intonation, and by improving their understanding of the natural flow of spoken English.

In addition to these practical aspects of spoken English, there will be various writing, reading, and research assignments throughout the semester, designed to get students engaged with various topics related to popular music, culture, and history, and to deepen their understanding of the English language itself.

During the first half of the semester there will be listening and comprehension exercises, as well as worksheets and writing assignments. Toward the end of the semester, students will give presentations on their research of popular music and culture. These presentations will be about 15 minutes each, will involve the use of PowerPoint, and will be followed by questions from the audience. Active and enthusiastic participation and regular attendance in this class are essential, and are guaranteed to help students become better speakers of English.

**授業の計画:**

- Spring Semester -

- Week 1 The Music of English
- Week 2 Genres of Popular Music
- Week 3 A Music Survey Worksheet
- Week 4 Finding the Beat: Rock 'n' Roll
- Week 5 Lyric Analysis: Five Points of View
- Week 6 Lyrics Analysis Worksheet
- Week 7 Cultural Influences on Music: The Blues
- Week 8 Thesis Worksheet
- Week 9 Facts, Turning Point, Luck: The Business of Music
- Week 10 Oral exam 1
- Week 11 Student Presentations
- Week 12 Student Presentations
- Week 13 Student Presentations
- Week 14 Presentation Review
- Other Oral Exercises

- Fall Semester -

- Week 1 The Rhythm of English
- Week 2 Song Structure
- Week 3 Finding the Beat: Pop
- Week 4 The Language of Pop
- Week 5 Lyric Analysis: Identifying Key Words, Phrases, and Slang
- Week 6 Lyrics Analysis Worksheet
- Week 7 Cultural Influences on Music: Reggae
- Week 8 Thesis Worksheet
- Week 9 Facts, Turning Point, Luck: The Business of Music
- Week 10 Oral Exam 2
- Week 11 Student Presentations
- Week 12 Student Presentations
- Week 13 Student Presentations
- Week 14 Presentation Review
- Other Oral Exercises

**成績評価方法:**

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, final presentations, and oral exams.

**テキスト(教科書):**

There is no textbook in this class. However, there will be readings, worksheets, and writing assignments posted regularly on our class homepage on canvas.

**担当教員から履修者へのコメント:**

The instructor's expectations are regular on-time attendance, preparation of weekly homework assignments, and active participation in class (using English at all times). All the class sessions will be conducted in person. Students can expect feedback on assignments, classroom activities, and questions they have. The main goal of this course is to help students improve their English speaking ability and, with their individual commitment, they can fully expect to be better English speakers by the end of the course. Moreover, through the oral exercises students can expect to develop both confidence and competence in spoken English.

**質問・相談:**

When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (jay@keio.jp).

**英語第Ⅲ 1 単位(春学期)**

**英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)**

Case Studies in Criminal Law P

春学期・秋学期: 木3

ヤング, ジェローム

**授業科目の内容・目的・方法・到達目標:**

The aim of this class is to help students improve their ability to communicate naturally in English. The theme of this course is criminal law and uses specific jury trial cases as a way to get to a deeper understanding of the criminal justice system. Issues of culpability, justification, excuse, and mitigation, as well as issues related to the judiciary process, in particular the jury trial and citizen judges, will be central themes in this class. While this course aims to improve students' listening, reading, writing, and communication skills, students will also improve their knowledge of the way the jury trial functions. Each semester, students will give presentations on a jury trial case of their choice. These presentations will be about 15 minutes each and will be followed by audience discussions. To prepare for presentations, students will choose a specific jury trial case to research, and then design a presentation, using PowerPoint, to introduce the legal and philosophical issues of the case to class. Final presentations should be both informative and argumentative. Active and enthusiastic participation and regular attendance in this class are essential.

**授業の計画:**

- Spring Semester -

Week 1 The Trial System: An Overview

Week 2 Jurisprudence: Criminal Trial Survey Worksheet

Week 3 Positive Morality and the Juror

Week 4 Actus Reus/Mens Rea: The Crime Worksheet

Week 5 The Facts: The Trial Worksheet

Week 6 Jury Selection Worksheet

Week 7 Legal Arguments

Week 8 A Case Study: The Thesis Worksheet

Week 9 Citizen Judges & Justice

Week 10 Public Speaking & the Courtroom

Week 11 Student Presentations

Week 12 Student Presentations

Week 13 Student Presentations

Week 14: Student Presentation Review

Other: Fieldwork

- Fall Semester -

Week 1 The Jury Trial (Overview)

Week 2 Actors in the Jury Trial: Criminal Trial Survey Worksheet

Week 3 Jurors and Judges

Week 4 Opening Statements (The Crime Worksheet)

Week 5 The Prosecutor's Case and the Defense's Case (The Trial Worksheet)

Week 6 The Language of Direct & Cross Examination

Week 7 Admissibility of Evidence

Week 8 The Thesis Worksheet

Week 9 The Jury's Verdict

Week 10 Public Speaking & the Courtroom, revisited

Week 11 Student Presentations

Week 12 Student Presentations

Week 13 Student Presentations

Week 14: Student Presentations Review

Other: Fieldwork

**成績評価方法:**

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, and final presentations.

**テキスト(教科書):**

There is no textbook in this class. However, there will be readings, worksheets, and writing assignments posted regularly on our class page on canvas.

**担当教員から履修者へのコメント:**

The instructor's expectations are regular on-time attendance, preparation of weekly homework assignments, and active participation in class (using English at all times). All the class sessions will be conducted in person. Students can expect feedback on assignments, classroom activities, and questions they have. The main goal of this course is to help students improve their English speaking ability and, with their individual commitment, they can fully expect to be better English speakers by the end of the course. Moreover, by the end of the year, students will possess a deeper, more thorough understanding of the jury trial process.

**質問・相談:**

When students have questions, they can ask me anytime before, during, or after class, or via email (jay@keio.jp).

**英語第Ⅲ 1 単位(春学期)**

**英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)**

映画から見るアメリカの文化と歴史 [C]

春学期・秋学期: 金4/金5

横山 晃

**授業科目の内容・目的・方法・到達目標:**

本授業では、映画の鑑賞を通して、英語表現や作品が作られた背景知識を学習することを目的とします。一つの作品を数週にわたって鑑賞します。気になった箇所、あるいは意味がわからなかった箇所として意見があがったシーンについては、再度見直してディスカッションを試みます。また、映画鑑賞を行わない週には、人種やジェンダー、身体といったトピックに関して講義を行います。

※「映画鑑賞」と記載された週は対面で行いますが、鑑賞の進み具合によってはスケジュールを変更する可能性があります。

**授業の計画:**

**【春学期】**

第1回 イントロダクション

第2回 映画鑑賞(1-1)

第3回 映画鑑賞(1-2)とコメント共有

第4回 映画鑑賞(1-3)とコメント共有

第5回 トピック:表象について(1)

第6回 トピック:表象について(2)

第7回 トピック:表象について(3)

第8回 映画鑑賞(2-1)

第9回 映画鑑賞(2-2)

第10回 映画鑑賞(2-3)

第11回 トピック:人種(1)

第12回 トピック:人種(2)

第13回 トピック:人種(3)

第14回 総括

その他 課題、レポート

**【秋学期】**

第1回 イントロダクション

第2回 映画鑑賞(3-1)

第3回 映画鑑賞(3-2)

第4回 映画鑑賞(3-3)

第5回 トピック:人種(4)

第6回 トピック:ジェンダー/セクシュアリティ(1)

第7回 トピック:ジェンダー/セクシュアリティ(2)

第8回 映画鑑賞(4-1)

第9回 映画鑑賞(4-2)

第10回 映画鑑賞(4-3)

第11回 トピック:ジェンダー/セクシュアリティ(3)

第12回 トピック:ジェンダー/セクシュアリティ(4)

第13回 トピック:ジェンダー/セクシュアリティ(5)

第14回 総括

その他 課題、レポート

**成績評価方法:**

平常点およびレポートによる評価

テキスト(教科書):

指定なし。必要な資料は適宜配布します。

参考書:

適宜紹介します。

質問・相談:

質問等は授業内でお伝えするメールアドレスまでお願いします。

---

英語第Ⅲ 1 単位(春学期)

英語第Ⅲ 1 単位(秋学期)

“Lost Languages: The Enigma of the World’s Undeciphered Scripts”  
[C]

春学期・秋学期: 土3

ローザ, マーク

---

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

In this class, we will read Andrew Robinson’s “Lost Languages: The Enigma of the World’s Undeciphered Scripts” and explore various writing systems from history, some of which were eventually deciphered, some of which are partially understandable, and some of which remain a mystery even today. Human writing had its origin in record-keeping and contracts, and we will compare some of these “lost” writing systems to modern ones which were able to expand to encompass phonetic information and survive to the present day.

“Lost Languages” is obtainable through Amazon.co.jp at <https://www.amazon.co.jp/-/en/Andrew-Robinson/dp/050028816X/>. We will use the 2009 edition, but if you cannot obtain that one, the previous edition from 2002 is mostly the same.

The text and discussion will be primarily in English. Supplementary optional materials, including optional Japanese-language resources for reference, will be added as the class progresses. If you have material of your own that you recommend, please introduce it!

We will aim to read one chapter of 20-30 pages of English text per week, with a list of comprehension questions to answer along with a free-writing section where you can express any opinions you might have, with a group discussion the following week. The text is heavily illustrated and should be a pleasure to read if you are interested in the subject.

Participation and discussion are the most important part of the course; please join with enthusiasm!

At the end of each semester, students will complete a medium-length paper (free length, but aim for 6-8 pages of A4) and a final presentation. Depending on class size, the final presentations may become group work.

授業の計画:

Schedule (subject to change):

First Semester:

Session 1: Self-introductions: what languages have you studied and what languages are you interested in? Have you previously done scholarship in English?

Session 2: Introduction to “Lost Languages”: What is writing? For what purposes do civilizations create it? How has it evolved over time?

Session 3: Introduction to “Lost Languages” (2)

Sessions 4-9: Three Great Decipherments:

- 4. Voices of the Pharaohs. Egyptian hieroglyphs (Egypt) (1)
- 5. Voices of the Pharaohs. Egyptian hieroglyphs (Egypt) (2)
- 6. The labyrinth of Minos. Linear B (Greece) (1)
- 7. The labyrinth of Minos. Linear B (Greece) (2)
- 8. Bishop de Landa’s Inquisition. Mayan glyphs (Central America)
- 9. Bishop de Landa’s Inquisition. Mayan glyphs (Central America)

Sessions 9-12: Undeciphered Scripts:

- 9. Voices of the Black Pharaohs. The Meroitic script (Sudan) (1)
- 10. Voices of the Black Pharaohs. The Meroitic script (Sudan) (2)
- 11. A Mediterranean mystery. Linear A (The Aegean) (1)
- 12. A Mediterranean mystery. Linear A (The Aegean) (2)

Session 12: Conclusion; supplementary materials; final presentation preparation (1)

Session 13: Conclusion; supplementary materials; final presentation preparation (2)

Session 14: Final presentations, final discussion, and preparation for second semester

Other: For the final weeks in each semester, students will prepare a short thesis and make a presentation in class (depending on the number of students, this may become a group project. Questions to each presenter are encouraged!

Second Semester:

Session 1: Self-introductions, review of first semester

Sessions 2-11: Undeciphered Scripts, continued:

- 2. Greek but not Greek. The Etruscan alphabet (Italy) (1)
- 3. Greek but not Greek. The Etruscan alphabet (Italy) (2)
- 4. Secrets of the ancient ledgers. The proto-Elamite script (Iran) (1)
- 5. Secrets of the ancient ledgers. The proto-Elamite script (Iran) (2)
- 6. Birdmen of Rapanui. Rongorongo (Easter Island) (1)
- 7. Birdmen of Rapanui. Rongorongo (Easter Island) (2)
- 8. The New World begins to write. The Zapotec and isthmian scripts (Mexico) (1)
- 9. The New World begins to write. The Zapotec and isthmian scripts (Mexico) (2)
- [If time allows] At the sign of the unicorn. The Indus script (Pakistan/India)
- 10. Sir Arthur’s “Chant of Victory”. The Phaistos disc (Crete) (1)
- 11. Sir Arthur’s “Chant of Victory”. The Phaistos disc (Crete) (2)

Session 12: Conclusion; supplementary materials; final presentation preparation (1)

Session 13: Conclusion; supplementary materials; final presentation preparation (2)

Session 14: Final presentations, final discussion, and concluding thoughts

Other: For the final weeks in each semester, students will prepare a short thesis and make a presentation in class (depending on the number of students, this may become a group project. Questions to each presenter are encouraged!

成績評価方法:

Your grade will be calculated based on: 30% homework, 50% participation, and 20% final paper/presentation. Office hours are to be determined but will be online/by e-mail.

参考書:

図説文字の起源と歴史 アンドルー・ロビンソン著/片山陽子訳  
創元社 2006年

ロゼッタストーン解説 レスリー・アドキンズ/著、ロイ・アドキンズ/著、木原武一/訳 2003年

古代文字の世界 モーリス・ポーブ著、唐須教光訳、講談社学術文庫  
1995年